

第5学年 体育科 学習指導案

令和2年10月28日(木) 第5校時 体育館

1 単元名

「Go to シュートイン！フィジカルディスタンスで楽しむバスケットボール」(ボール運動・ゴール型)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

- バスケットボールは、攻めと守りが入り交じり、手でドリブルやパスでボールを回し、シュートをして得点を競い合っている楽しむ運動である
- チームや個人の特徴に応じた作戦を立てて集団対集団で勝敗を競う楽しさがある運動である。
- チームの協力によって、ボールの扱いに慣れていない児童もチームの一員として活動できたりして楽しむことができる運動である。

(2) 児童からみた特性

バスケットボール運動の楽しさや喜びを感じる要因	バスケットボール運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none">・シュートを決められたとき・友達と協力して、チームで試合に勝ったとき・ドリブルやパスが上手にできたとき・作戦通りに攻撃できたとき	<ul style="list-style-type: none">・ボールが怖く、突き指などけがの心配がある・ボールを受け取れない・動き方がわからず、試合中ボールに触れない・シュートを入れることができない・ドリブルやパスが上手にできない

3 児童の実態

(1) 知識及び技能

4年生の5月に実施した「新体力テスト」の結果を「県標準値」と比較すると、男子は8項目中 項目、女子は 項目が県標準値を上回った。男子女子共に県標準値を下回ったものは、「握力」、「直座体前屈」である。筋力や、柔軟性が不足している。

3年生の時の、ポートボールの学習では、ボールをチーム内で回したり、ボールを持ったら体をゴールに向けたりすることを学んでいる。4年生の時のハーフバスケットボールの学習では、ドリブルやパスなど基礎的な技能をゲーム感覚で学習し、集団対集団で攻防することや、シュートが入る楽しさを味わい、ミニゲームを繰り返し行うことでバスケットボールの特性に触れてきたが、ボールに恐怖心をもっていたり、ボール操作がうまくできない児童がいたり、技能に個人差が見られる。

(2) 思考力、判断力、表現力等

今年度、体育の学習では、新型コロナウイルス感染症対策として、エアロビクス、筋肉トレーニング、ストレッチの動画を見ながら、体を動かす学習を行ってきた。学習カードを活用して、めあてを毎時間しっかりもち、自分の体のどこに効いているかを意識できるようにしてきた。振り返りでは、前回との体の変化に気づき、体力の向上を感じている児童もいた。しかし、めあてをもたず、正確な動作でできていなかったり、伸びを意識できなかったりして、体にしっかり負荷をかけられていない児童もいた。

(3) 学びに向かう力、人間性等

本学級の児童は、体を動かすことが好きな児童が多く、体育の授業に対して意欲的に取り組んでいる。休み時間には、外で遊ぶ児童が多くないため、運動経験の不足が考えられるが、体を動かすことが好きな児童は多い。

【体育に関する意識調査より】

質問1 運動や体を動かすことは好きですか。

回答	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い

質問2 普段から運動や体を動かす遊びをしますか。

回答	する	少しする	あまりしない	しない

質問3 体育の授業は好きですか。

回答	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い

質問4 体育の授業で、どのようなことを楽しみにしていますか。(複数回答可)

回答	できる技が増えること	試合で勝つこと	友達と仲良くなること	その他
人数				
理由	その他 <ul style="list-style-type: none"> ・思いっきり体を動かせること。 ・筋力がつくこと。 ・チームで試合や練習をすること。 ・友達と作戦を考えること。 ・様々なチームと対戦すること。 			

上記のような意識調査から、学校休業中にあまり運動する機会がなかったことも考えられ、体育の授業で体を動かすことを楽しみにしている児童が多いことが分かった。また、試合で勝つことに対する関心が高いことも分かる。

4 教師の指導観

(1)知識及び技能

4年生の時のハーフバスケットボールの学習では、新型コロナウイルス感染症のため、単元の途中で終わっており、バスケットボールに必要な知識や技能を十分に習得できていない状態である。そのため、単元前半はスキルアップを継続的に行い、基本的な技能を習得できるようにしていく。また、すべての児童が得点できるように、特設ゴールを設置し、得点枠を広げることでシュートが決まる喜びを味わえるようにした。本単元では、ハーフコートで実施し、単元前半では、ドリブルなしでゲームを行うことで、「ボールを持たないときの動き」を身に付けられるようにしていく。単元後半には、ドリブルを入れてゲームを進める。攻撃の選択肢が増える楽しさやゲームの状況によって使い分けることを学び、次年度のゴール型の学習につなげたい。

(2)思考力、判断力、表現力等

本単元は、ゲームを中心に授業を組み立てた。実戦から考え、課題を見付け、解決の手立てを見付け出させたい。そのためには、単元前半に「うまくいった」「うまくいかなかった」経験を多くさせ、全体で共有していき、ボールを持っていない動きがシュートにつながる動きにつながっていることに気付かせたい。単元後半には自分たちの課題に気付き、選択するなどして練習や作戦を工夫して考えられるようにしていく。作戦タイムは、試合の前半後に設けることにより、課題を解決するための動きを考えさせ、次の試合ですぐに実践できるようにしていく。その際には、作戦ボードを使い、駒を動かしながら作戦を練り、視覚的に動きがイメージしやすいようにしていく。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクを着用し、隣の人との間隔をとりながら行うようにする。

(3)学びに向かう力、人間性等

バスケットボールの経験が少ないことが懸念されるため、基本練習を行い、ボールに対する恐怖心を軽減していきたい。また、作戦タイムや振り返りでは、自分やチームの改善点を明確にして話し合わせるとともに、「どうすれば勝てるのか」にこだわらせ、チームのためにできることを考え

実践するなどチームスポーツの楽しさや魅力を味わわせたい。

さらに、試合後には勝敗関係なく、相手のプレーを称え、「ノーサイド精神」を養わせたい。教師が良いプレーを積極的に取り上げ、全体の前で称賛し、児童の意欲を高めていく。チーム編成では、技能面だけでなく、人間関係や協調性、リーダー性を考慮しながら編成を行う。

試合前の「ファイトポーズ」をチームごとに決め、心を一つにし、仲間と協力する楽しさや喜びを共感させる。

5 研究主題との関連

「仲間との豊かなかかわりの中、進んで運動に取り組む児童の育成」

仮説① 仲間とのかかわりを豊かにする視点を明確にし、授業中の計画的な支援を行えば、進んで運動に取り組む児童を育成することができるであろう。

【手立て】

ミーティングを通して、仲間の考えや取組を認めたり、自分の考えを他者に伝えられたりすることができるようにする。チーム全員の得点を目指すように支援していく。また、参考となるチームを取り上げて、練習方法やアイデアを全体に紹介し、称賛することで全体に浸透させていく。

「ファイトポーズ」をチームごとに決めるなどして、仲間と運動できる楽しさや、シュートが決まった時の喜びをチーム全員で共感し、結束力を強められるように支援していく。

仮説② 仲間とかかわりながら、精一杯運動できる授業づくりを行えば、進んで運動に取り組む児童を育成できるであろう。

【手立て】

単元を通して、チーム練習・試合・作戦タイムを重ねることで、児童の個人技能を高めるとともに、チームの課題の発見と改善、児童が個やチームの伸びを実感するとともに、児童の考えや気付きを引き出し、質の高い授業の実践にむけて支援していく。学習カードを活用し、自己の成長を感じ取れるようにしていく。また、試合や練習の際に、友達の良い点や参考となる動きについて学習カードに書き込ませることで、児童の気づきや動きの変容を見取っていく。

すべての児童が得点できるように、特設ゴールを設置し、得点枠を広げることでシュートが決まる喜びを味わえるようにし、初得点を10点に設定した。ゴールに向かう意欲を高めるとともに、チームの一員として活躍できたことの喜びを味わわせていく。

6 単元の目標

(1) ボール操作やボールを受け取るための動きを身に付け、攻防ができるようにする。

【知識及び技能】

(2) チームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えを他者に伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① バasketボールの行い方について言ったり、書いたりしている。 ② 近くにいるフリーの味方にパスすることができる。 ③ フリースペースに動いてパスをもらい、シュートすることができる。	① 得点に結びつく効果的な方法を考え、チームの特徴に合った作戦を選んでいる。 ② 自分や仲間が行った動きの工夫について、動作や言葉などを使って他者に伝えている。	① Basketballに積極的に取り組もうとしている。 ② ルールやマナーを守り、仲間と楽しく活動しようとしている。 ③ 勝敗を受け入れようとしている。 ④ 使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を付けたりしている。

8 単元計画

(1) 領域(ゲーム・ボール運動(ゴール型ゲームの)取り上げ方

運動 / 学年	3年	4年	5年	6年
ゴール型ゲーム	17時間	21時間	14時間	16時間

(2) 領域の内容と目指す動き

学年	教材	目指す動き
3年	ポートボール ラケットベースボール ラインサッカー	○近くにいる味方にパスをする、シュートをする。 ○止まっているボールを強く打つ。 ○ボールのけり方、止め方、動き方、シュートをする。
4年	サッカー タグラグビー ハーフバスケットボール	○味方にパスをしてシュートをする。 ○タグをとられないようにし、トライをする。 ○チェストパス、ワンバンドパス、ドリブル、シュートをする。
5年	バスケットボール フラッグフットボール	○相手がいな場所動き、パスをもらい、シュートをする。 ○相手に向かってボールを投げる、とる、トライする。
6年	フラッグフットボール サッカー	○ボールを受け取れる場所移動して、トライする。 ○スペースに移動し、パスを受ける。

9 本時の指導計画（4／8時）

(1) ねらい

フリースペースに動くことができる。<知識及び技能>

(2) 準備

・ 掲示資料 ・ 学習カード ・ 得点版 ・ ストップウォッチ ・ 消毒液

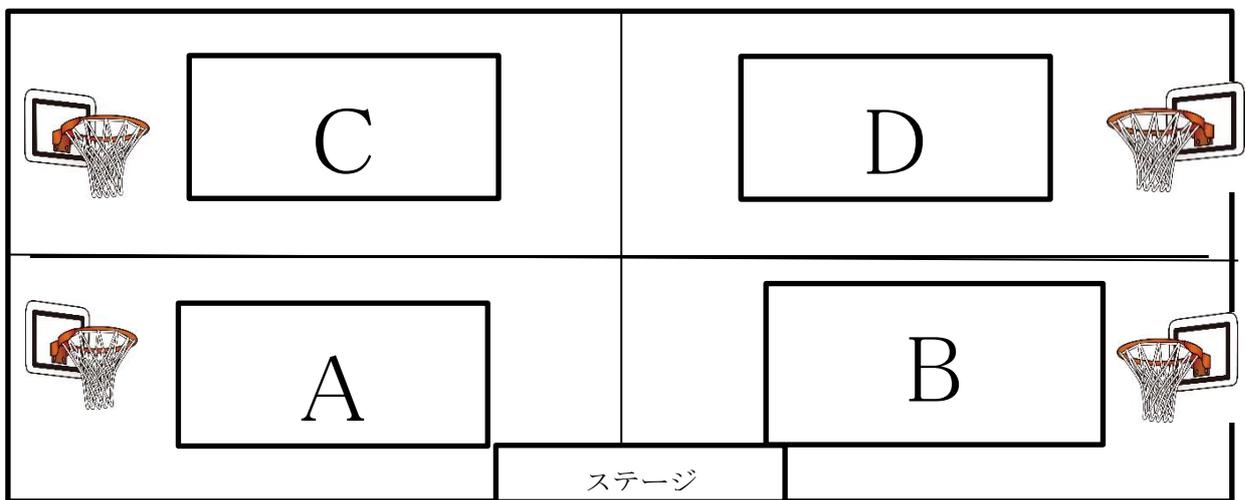
(3) コロナ状況下でもかかわりが豊かになる工夫（展開のなかに🌀で記載）

(4) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点(○指導 ◆評価規準) 🌀コロナ状況下でもかかわりが豊かになる工夫
導入 10分	1 整列、挨拶、健康観察をする。 2 チーム練習で準備運動を行う。 3 チームでスキルアップを行う。 ①パス回し ②鳥かご ③シュート	○児童同士の間隔を空けて、整列する。 ○授業前に手指消毒を行わせる。 ○姿勢よく、しっかり挨拶できるようにする。 ○児童の顔色や様子を確認するとともに、安全のために服装を整えさせる。 ○準備運動が雑にならないように、リーダーを中心に、しっかり行えるように声かけする。よくできている児童やチームを称賛し、全体に広める。 ○巡視しながら、チームごとにしっかり目的をもち、何を意識して行っているのかを確認する。 ○勝てていないチームに声をかけ、支援する。 ○動き方がわからない児童には、一緒に動きながら、具体的な動きを確認していく。
展開 30分	4 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> フリースペースに動こう。 </div> 5 リーグ戦を行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【リーグ戦】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 on 2 ハーフコート ・ ドリブルなし ・ 相手に直接触れない ・ 試合時間 1分30秒 ・ 前半・後半 二部制 ・ 前半終了後、作戦タイム 5分 ・ 初得点 10点 ・ シュートイン 2点 ・ ラッキーゴール 1点 </div>	○学習すべき内容を全体で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> フリースペースに動こう。 </div> ○前時までの学習で、フリースペースを活用できているチームや、パス回しが上手なチームを取り上げ、全体で共有し、本時のめあてを意識できるようにする。 ○本時のねらいにせまる発問をし、フリースペースを使うことへの有効性の認識を全体で共有する。 ○「フリースペース」が見つけれられない児童には、具体的な動きを指示する。 ○これまでの試合で勝てていないチームに積極的に関わり、動き方の指示をするなどして支援する。 ○フリーの味方にパスができていた児童を積極的に取り上げ、称賛することで全体に広めていく。 ○ボールに触れられなくても、ボールをもらえるように動いている児童を積極的に評価し、児童に自信をもたせるように声かけをする。 🌀チームごとにファイトポーズを行い、チームの一体感と士気を高める。 🌀応援中は、マスクの着用をさせる。 ○試合開始の挨拶は、しっかり礼をして始めるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ◆フリースペースに動くことができる。 (観察)【知識・技能】 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> △努力を要すると判断される状況(C)の児童への指導の手立て <ul style="list-style-type: none"> ・ パスがもらえない、動き方がわからない児童に対しては、具体的な助言を行うとともに、教師がコート上に入り、児童の動きをサポートする。 ◎十分満足できると判断される状況(A)の児童の具体的な姿 <ul style="list-style-type: none"> ・ パスをフリーの状態でもらえるように、守備の動きに合わせて空いているスペースに動くことができる。 </div>

	6 作戦タイムを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ✳️ 作戦タイムには、マスクの着用をさせる。 ✳️ 隣の人と間隔をとりながら行う。 ○ めあてに沿った話し合いができるように声かけをする。 ○ 前半に得点が伸びていないチームに声かけをして支援する。 ○ フェアプレイで試合が楽しめるように声かけする。 ○ 試合後には、「ノーサイド精神」で相手に感謝の気持ちを表し、しっかり挨拶をして終わりにする。
まとめ 5分	7 本時の振り返りをする。 ・ 次時の予告をする。 8 整理運動・挨拶・後片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習カードに記入させ、本時のねらいに沿った振り返りができるように声かけするようにする。 ○ 動きの良かった児童を取り上げ、どんなめあてをもって取り組んでいたのかを聞き、全体の前で称賛する。 ○ 振り返りを発表させ、フリースペースに動けたり、シュートが決められたりしたチームを称賛する。 ○ 次時の取組に触れ、意欲付けを図る。 ○ 使った部位を念入りにストレッチするように助言する。 ○ 児童の健康チェックをし、しっかり礼をして挨拶ができるようにする。

試合会場図 練習場



ラッキーゴール



ラッキーゴール

- ・ 枠に入れば1点
- ・ 初得点は、シュートインでもラッキーゴールでも10点

【コロナ状況下でもかかわりが豊かになる工夫】

①準備運動

チームごとに準備運動をすることで、チームワークを高める。隣との間隔を空け、担当の児童のみ声を出して、準備運動を行う。



②作戦タイム

作戦タイムでは、マスクを着用し、隣との間隔を空け、話し合うようにした。時間は短く、立ったままで話し合いを行い、試合の振り返りや、課題を話し合った。

③サイレントコール



チームの士気を高めるために、声を出さずに、サイレントコールで士気を高めた。チームでポーズなどを決めた。



④ポスターの作成

チームごとにポスターの作成を行い、チーム名や、個人の目標、役割分担を決めることでチームの団結力を高め、授業に対する意欲を高められるようにした。

